

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年11月30日

【評価実施概要】

事業所番号	〃0175000173
法人名	社会福祉法人 北見睦会
事業所名	グループホームかがやきの里むつみ2号館3号館
所在地	北見市美芳町10丁目1-5 (電話) 0157-24-7781

評価機関名	(有)NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成21年11月24日

【情報提供票より】(21年10月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 21 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	20 人 常勤 12人, 非常勤 8人, 常勤換算 7.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	3階建ての、2階～3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	45,000～50,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(10月12日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	1名		
年齢	平均 86.5歳	最低	77歳	最高	101歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	総合病院北見赤十字病院・医療法人社団 金山歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームかがやきの里むつみ2号館・3号館は、1階がデイサービスセンター、2・3階がグループホームとなっており、すぐそばには石北公園やショッピングセンターがある住宅地に位置しています。利用者は週1度デイサービスセンターに通い通所者と共にレクリエーションを楽しみ交流を図っています。家族の方が蕎麦・うどん打ちを利用者の前で行い、美味しい出来立ての蕎麦・うどんを頂けるのを利用者は大変喜んでいきます。家族や地域の方と一緒に焼肉会、本格的な屋台や歌謡ショー等内容豊富な『かがやき祭り』には地域の方や家族が集い利用者は楽しく過ごしています。クリスマス会では、大正琴などのボランティアの出し物や利用者が扮したサンタさんがプレゼントを配るなど趣向凝らし利用者の笑顔が見られるよう職員はいつも心がけ支援しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題であります地域とのつきあいは、ホームでの行事に地域の方へ利用者と共に直接案内を配りホームを理解して頂けるよう心掛け、また町内会行事に積極的に参加し顔なじみの関係作りに努めています。定期的な運営推進会議の開催や活用、災害対策の地域住民の協力体制作り等の重要性は十分理解し継続課題として取り組んでいます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は評価の意義について職員に伝えており、自己評価は全職員が各自行ったものを管理者が纏め作成しています。外部評価の結果は、玄関先に開示されミーティング等で話し合い質の向上に努めています。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は5月・9月に開催され、町内会代表、包括支援センター職員、家族、訪問看護ステーション責任者、施設長、管理者、職員等で構成され、ホームの行事報告、職員研修状況、インフルエンザの対応、事故・ヒヤリハット等の報告等話し合われています。今後、外部評価の結果等を話し合い質の向上に取り組む予定となっています。また、議事録は作成されていますが配布には至っていません。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族全てが運営推進会議のメンバーであり、会議内で報告等行っています。また職員の異動等のお知らせやホームでの様子を写真入で紹介しているホーム便り『かがやきめーる』と、利用者一人ひとりの毎日の様子を綴った手紙を毎月送っています。家族の訪問時にも積極的に話掛け、気軽に話せる雰囲気作りを心掛けています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、総会や町内の清掃活動、町内会の親睦焼肉会に利用者と共に参加しています。ホーム主催のお祭りの案内を利用者と一緒に配り、地域の方に参加して頂いたり、運営推進会議後に焼肉をしたり、近所の方がぶどうや野菜などを差し入れてくれる等の交流があります。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けられるようにと「ゆっくりと、自分のペースで、尊厳のある生活を維持できるようにありのままのあなたを支援します」を独自の理念に掲げています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム事務所・居間に掲示し、毎日朝礼時に唱和し確認するとともに日々のケアの中で実践できるよう取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域行事(総会・懇親会・掃除等)に積極的に参加したり、ホーム行事(かがやき祭)には地域住民が参加するなど交流を深めています。又、介護相談等についても対応するなど、地域との関わりが徐々に広がってきています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義や目的については理解しており、自己評価は全職員で取り組み、そこでの気づきをサービス向上に繋げています。管理者は外部評価の結果については前向きに取り組む姿勢が伺えます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センター職員・地域住民代表・利用者家族・訪問看護ステーション責任者等を構成員として、9月に2回目が開催され、事業所の報告等により意見交換し、その後、親睦会(焼き肉)を開催し交流が行われています。12月に3回目を予定しています。	○	地域の理解と協力が得られる貴重な機会として定期的(2ヶ月毎)に開催し、情報共有という観点から議事録は出席者及び家族全員に配布することを望みます。又、外部評価の結果についても議題に含め、参加メンバーから助言を得るなど、運営推進会議と評価が一体的に活かされるよう配慮し、サービスの質の向上に繋げることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは必要に応じて報告・相談をしたり、空室状況について情報を得るなどで連携を図り、サービスの質の向上に努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりが掲載された「かがやきめーる」通信や利用者一人ひとりの生活の様子を記載したお便りを毎月発行し家族に報告しています。職員の異動等は通信や家族の訪問時に伝えています。又、職員はカンファレンスの中で情報を共有し、いつでも家族に伝えられる体制を整えています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族とのコミュニケーションを大切にし、訪問時に話して貰える雰囲気づくりに努めています。相談・要望等があった場合は職員で共有し、運営に反映させています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は各ユニット毎に固定化しており、異動等があった場合には、管理者・職員は利用者へのダメージに配慮した支援に努めています。休憩室の確保やカンファレンスでの職員の意見等を考慮し、職員が働きやすい環境を整えています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は情報提供に努め、職員が研修に参加できるよう支援しています。研修に参加した職員はミーティング時に伝えています。系列ホーム等合同で開催するかがやきの輪会議(月1回)には管理者・職員が参加し、情報共有に努めるとともに研修委員会を設け、研修時の報告会を検討しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修会・勉強会を通じて交流に努め、サービスの質の向上に取り組んでいます。地域のグループホーム利用者で結成している合唱団の練習等でも交流を図っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者・家族に何度か見学してもらい、お茶を飲んだり、話をする中で情報収集に努め、事業所の雰囲気に馴染んでもらい、本人が安心して暮らせるよう配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、料理や昔の遊び、物を大切にすること、思いやり等、共に生活する中で学びながら支え合う関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話に常に傾聴するよう心がけ、困難な場合でも行動や表情から一人ひとりの希望や意向の把握に努めています。常にありのままに元気に過ごせるよう支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者と家族、双方からの意見や希望を把握し、職員の気付きや主治医の意見をもとに利用者本位の介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(3ヶ月に1度)な見直しを行うとともに、毎日のカンファレンスや利用者の状態変化時はその都度介護計画の見直しを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・個別の外出・併設されているデイサービスへの往来等、利用者や家族の要望に応じて柔軟に対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望するかかりつけ医への受診支援を行っています。又、月1回の協力医療機関の往診や週1回の訪問看護師による健康管理が行われ、適切な医療を受けられるよう配慮されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた指針が整備されています。医師や訪問看護ステーションと連携をとりながら、日々の利用者の健康状態や重度化した際の対応については、職員間で話し合い情報の共有を図っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを損ねることのない声かけや対応を心がけています。個人情報の取り扱いについては契約時に家族等に説明し同意を得ています。個人記録の記入や書類の保管についても配慮されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大まかに決まっていますが、職員は利用者のペースを大切に、意向に添った支援を行っています。自室で過ごしたり、ホールでテレビを見たり等、思い思いに自分らしく過ごしている様子が伺えます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや旬の食材をとり入れた献立を職員が交代で作成し、後片付けや茶碗洗い等、利用者は自分のできることを職員の見守りの中で行っています。収穫した野菜でおやつを作ったり、お弁当を持って出かけることもあり、食事が楽しくなるよう工夫がされています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決まっていますが、利用者の希望に応じた入浴となっています。入浴拒否の利用者にはタイミングに合わせた支援に取り組んでいます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の経験や得意な事を見極め、発揮できる場面を提供し、調理・掃除・洗濯物たたみ・合唱団の練習等、役割を通して自信が持てるよう支援しています。ユニット合同のかがやき祭りやクリスマス会・家族が来訪して作ってくれる手打ち蕎麦・うどんや手作りおやつ等は利用者の楽しみとなっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や体調・天気に配慮しながら、散歩・買い物・野菜の収穫・花見やお祭り・公共施設見学等、できる限り外出できるよう支援しています。今は、依然と続くインフルエンザ警報により外出を控えるなどし、健康管理に努めています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束についての勉強会やマニュアル等を作成し、鍵をかけることの弊害を十分理解しています。日中は鍵をかけず自由に入出りができるようになっています。一人で外出する利用者には職員が付き添うなどの配慮がされています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、年2回併設されたデイサービスセンターと合同の避難訓練を実施しています。緊急連絡網・マニュアルを整備し、町内会や運営推進会議の中で地域住民の協力を依頼しています。	○	いつ起こるかわからない災害等については、色々な場面を想定した訓練が必要と思われます。地域住民の理解や協力が得られるよう働きかけ、地域住民も一緒に参加した訓練の実施を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に配慮した食事になっており、食事や水分摂取量が記録され、職員で共有し支援しています。常に旬な食材をメニューとし、栄養バランスを心がけています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の大きな窓からは明るい陽差しが入り、暖かい雰囲気の中、ソファでテレビを見たり会話を楽しんだり居心地の良い空間になっています。又、観葉植物を置いたり、行事の際の写真を飾り、季節感や生活感を感じられるよう工夫がされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、使い慣れた家具(鏡台・タンス・ソファ・テーブルベッド等)や家族の写真などが置かれ、本人が安心してその人らしく過ごせるよう配慮されています。		